

架構自体が美しい、新しい木造空間

株式会社エバーフィールド 木材加工場



平成28年(2016年)熊本地震、令和2年(2020年)7月豪雨の際、木造仮設住宅や木造集会所「みんなの家」等の建設に携わった株式会社エバーフィールドが、災害時に住まいの再建の原動力となる木造建築産業のさらなる活性化、木造建築の担い手である大工の育成・技術力の向上を目的として木材加工場の整備を計画し、令和4年(2022年)に基礎工事に着手した。

公募型プロポーザルで選定された「小川次郎/アトリエ・シムサ+kaa」は、施主・施工者である株式会社エバーフィールドと意見を交し合い、フィードバックしながら技術を共有し、設計者曰く、建築として正しい姿を実現しながら進めている。設計を進めていく中で、施工上の課題を確認するため、また実際に施工した大工の意見を設計に反映するため、木材加工場の「モックアップを兼ねたゲート」が先行して施工された。

また、木材加工場の工事着手前にも木材の製材工場において、3Dデータでの構造解析、高性能なプレカット、そして大工の技術の組み合わせをモックアップで確認しながら、新しい木造空間に挑んでいる。

事業概要

計画条件: 木造 平屋
延べ面積: 600㎡程度・20mスパンの大空間
設計者: 小川次郎/アトリエ・シムサ+kaa
建築主: 株式会社エバーフィールド
建設地: 上益城郡甲佐町大学府領地内

CHECK!

2020年11月に開催されたモックアップ現場見学会の動画を公開しています。



公募型プロポーザル

湯浦地区 地域優良賃貸住宅



地域優良賃貸住宅の整備予定地と
芦北町湯浦地区のまち並み

くまもとアートポリス116番目のプロジェクトとして、「湯浦地区地域優良賃貸住宅」の公募型プロポーザルを実施している。本プロジェクトは、令和2年7月豪雨で大きな被害を受けた芦北町が、被災された町民の方をはじめ、移住希望者などが、安全・安心を実感できる住環境を整備し、次世代に繋いでいく、「創造的復興」の象徴となるような魅力ある施設として地域優良賃貸住宅を整備するものである。令和4年4月20日に公開審査を行い、設計者が決定する予定。

CHECK!

プロポーザルや公開審査に関する情報を公開しています。



熊本地震 震災ミュージアム

WS

2021.12.11 sat
2021.12.18 sat

素材や色を探るリサーチワークショップ

開催場所 | 熊本県庁、被災8市町村



被災地域の土地と人の記憶を継承する
体験・展示施設につなげるワークショップ。



熊本地震の記憶を遺し、学ぶ回廊型のフィールドミュージアム、熊本地震震災ミュージアム。その中核拠点となる体験・展示施設が、現在阿蘇地域に新設に向けて準備されている。

現在、公募型プロポーザルによって選定された「o+h・産紡設計JV」が、自然に呼応する建築と展示の計画を進めており、この建築物の建物サイン計画や空間の色彩計画などに反映させるためのワークショップ

が熊本県内の建築について学ぶ学生向けに開催された。ワークショップには、大学、専門学生の17名が参加。設計者である大西麻貴氏、百田有希氏を講師に迎え、県とともに震災ミュージアムの整備を進める8市町村(熊本市、宇土市、宇城市、御船町、益城町、西原村、南阿蘇村、大津町)を対象に、4班に分かれて復興に携わった方へのヒアリングや、それぞれの地域の特徴的な風景や素材・色などをリサーチした。その調査

結果を踏まえて、各班による発表とディスカッションが県庁会議室で開催された。発表では、それぞれの地域で採取された色に加え、その地域の特色、震災から地域一丸で取り組み、コミュニティのあり方や活動について、話題は多岐に渡った。グループワークでのリサーチ、現地調査によって、多様な視点で色や素材の考え方が議論され、今回のワークショップで得られた資料は、今後設計の中に反映される予定だ。

KASEIプロジェクト 九州建築学生仮設住宅環境改善プロジェクト

山江村で既設ゴミ置き場への屋根の取付や家具の制作を行いました。



九州山口の建築系大学の学生や教員が参加し、仮設住宅等の住環境改善に取り組むKASEIプロジェクト。

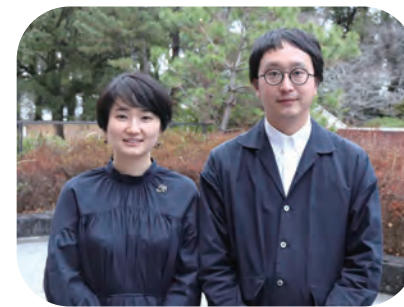
4月に九州大学が、山江村中央グラウンド仮設団地にて既設ゴミ置き場への屋根の取り付けを実施。「業者の方が中に入ってゴミの回収を行えるような高さで屋根がほしい」という要望を受け、訪問前にプランを考え当日材料の調達をして制作した。



7月に6大学(九州大学、福岡大学、佐賀大学、熊本大学、崇城大学、熊本県立大学)が、山江村中央グラウンド仮設にて住民の方の意見を聞きながら家具の制作を行った。角をやすりで削り、安心して使用してもらえるように配慮した。

設計者 Comment

o+h 大西麻貴氏 百田有希氏



災害というのが豊かな自然の恵みともあるものだと再認識し、この建築で災害と豊かな自然が隣り合わせにあるものだと伝えていきたいと感じました。今回のワークショップで地域と自然の関わりが浮かび上がってきたことが大きな収穫。複数の地域をエリア分けすることで多様な視点からのリサーチができたので、一人だったら気付かない学びがありました。

参加者 Comment

高専5年生 菊川 翔登さん



今回のワークショップで、普段住んでいる町を、いつもは見えない角度で見たり、いろんな人の声を聞いて、新たな発見につながりました。今後の建築に取り組む際の視点として活かせると思います。

大学3年生 小田 拓生さん



グループで活動することで自分だけでは至らなかった視点や考え方で地域を見ることができた貴重な体験でした。被災した地域を見て回ったことで、熊本地震がとても大きなことだと改めて実感しました。

専門学校1年生 山崎 貴大さん



被災した当時は、西原村に建て替えるボランティアに参加したことがあります。今回のワークショップでは、建築家さんと一緒にリサーチを体験でき、建築の勉強をもっと頑張ろうと感じました。

大学3年生 今村 仔輝さん



建築士や、公務員の方々、他大学の学生と一緒に活動することで、机上では得られない学びがあり、大きな刺激になりました。地域に足を入れ、人々の助け合いが大きいことに発見がありました。